

吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館運営協議会議事録

日 時 令和6年2月5日(月)午後7時から午後8時30分まで

会 場 子育て青少年拠点夢つながり未来館4階多目的会議室

■ 協議会次第

1 開会

館長挨拶

2 議事

- (1) 令和6年度 夢つながり未来館事業計画について
- (2) 各委員会からの報告及び意見交換について
- (3) その他

3 閉会

■ 出席委員(13人)

神戸委員・谷村委員・大西委員・栗原委員・山之内委員・上茶谷委員・

川畑委員・澤村委員・大川委員・佐藤委員・市場(千嘉子)委員・曾我委員・迫田委員

■ 事務局出席者(7人)

山本 智也 (子育て青少年拠点夢つながり未来館参与)

大川 雅博 (子育て青少年拠点夢つながり未来館館長)

宮本 貴至 (青少年活動サポートプラザ主幹)

川村 大輝 (青少年活動サポートプラザ主任)

中田 亜夕子(青少年活動サポートプラザ係員)

福井 菜穂 (のびのび子育てプラザ主任)

大塚 紘二 (山田駅前図書館館長代理)

■ 議事録

1 開会

(事務局)

本日は、お忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。

では、はじめに夢つながり未来館館長の大川より御挨拶をさせていただきます。

(大川館長)

改めまして、大川でございます。本日は夜遅くに足元の悪い中、御足労いただきましてありがとうございます。夢つながり未来館は開館から13年を迎えますけれども、この数年間は新型コロナウイルス感染症の感染拡大というところで、運営に苦慮しながらやってまいりました。去年の5月8日に感染症法上5類感染症へと位置づけられて以降も、3施設が連携し飲食制限の撤廃やアクリル板の撤去等を実施してまいりました。青少年活動サポートプラザ、のびのび子育てプラザ、山田駅前図書館、この3施設が連携して、利用者にとって親しみのある施設にするために、「ゆいぴあの日」を継続してまいりたいと思います。

夢つながり未来館では青少年活動サポートプラザや図書館を利用する青少年が、のびのび子育てプラザを利用する親子を普段から自然な形で目にするようになります。ここで子育てに触れた青少年が大人になり、地域の子育てにも興味を持ち、やがて自分の生まれた地域でボランティアとして様々な場面で活躍をする。そういった子育てや青少年の健全育成につながるサイクルがこの施設を中心に行ければと考えています。今後も3施設の良いところを活かしながら、夢つながり未来館として一体的な運営に取り組んでまいりたいと思います。

本日は、次第にありますとおり、令和6年度の事業計画について御説明させていただきます。忌憚のない御意見をいただきまして、より良い運営に繋げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

続きまして、資料の確認をさせていただきます。

(事務局)

資料確認

(事務局)

ありがとうございます。ではここからの議事進行につきまして、会長よろしく願いいたします。

(会長)

よろしく願いします。それでは議事進行に入ります前に、本日、傍聴希望者はいらっしゃいますか。

(事務局)

傍聴希望者はいません。

2 議事

(1) 令和6年度 夢つながり未来館事業計画について

(会長)

では改めまして議事の(1)「令和6年度 夢つながり未来館事業計画について」、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

・吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館 事業計画

それでは令和6年度事業計画のうち、夢つながり未来館の事業計画(案)について一部を抜粋して御説明申し上げます。資料3ページ目を御覧ください。

まず、3施設連携事業である「ゆいぴあの日」事業についてです。こちらの事業は、「青少年活動サポートプラザ」、「のびのび子育てプラザ」、及び「山田駅前図書館」の3施設が連携して実施している事業となります。

平成29年度より実施しているこちらの事業につきましては、例年実施している夏まつりやお正月あそびなど、次年度も引き続き実施してまいります。

次に、3施設連携の推進についてです。先ほど申し上げましたとおり、夢つながり未来館は3施設の複合施設となっております。この特徴を生かし、縦割りではない、3施設による一体的な運営を推進してまいります。

次に、運営協議会の開催についてです。夢つながり未来館運営協議会につきましては、当館の運営をより一体的なものとし、魅力ある施設とするために設置しています。令和6年度の開催につきましては、委員の皆様のご選任期間が令和6年6月30日までとなっておりますことから、第1回を新たな委員選任後の令和6年7月に、第2回を令和7年2月にそれぞれ予定しております。

最後に、防災対策についてです。毎年2回実施している消防避難訓練と、避難所の開設を想定した訓練を実施いたします。最近では本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、甚大な被害が生じました。また国内において地震はもちろんのこと、台風・大雨による風水害が毎年のように発生している状況です。いつ発生してもおかしくない災害に備え、過去の訓練の結果を踏まえて訓練を計画、実施し、職員ひとりひとりの災害等有事に対する意識の向上を図ってまいります。

夢つながり未来館の事業計画(案)については以上でございます。

・青少年活動サポートプラザ 事業計画

続きまして、青少年活動サポートプラザの事業計画(案)について、資料1の4ページ目に基づいて御説明いたします。前方のスクリーンを御覧ください。

まずは主催事業です。青少年の交流活動を支援するため、「であう場」、「はじまる場」、「広がる場」、「自立及び地域への参画」の4つのテーマから、事業を実施していきます。

ロビーDEカフェなど、青少年同士が知り合うための場づくり、人との繋がりや輪を広げるイベントを実施するとともに、さまざまな体験の場を提供することで、青少年の社会性を育てていくことを目指します。

続いて、3階交流ロビーの充実です。青少年の声を聞きながら、レイアウトや遊び場を工夫し、コミュニケーションのきっかけが生まれる空間づくりに努めます。

また、交流ロビーでは、「ロビーワーカー」というボランティアやスタッフが青少年同士の交流をサポートします。例えば、一人で来ている小学生に声をかけ、他の子と一緒にカードゲームで遊ぶことで、新たな出会いが生まれています。ロビーワーカーについては、コロナ禍で約3年間活動を休止しておりましたが、今年度から活動を再開しました。来年度は大学のボランティアセンター等も活用し、ロビーワーカーの募集を積極的に行っ

ていきます。

さらに、学習室の受付時や、交流ロビー利用時には、スタッフが積極的に声かけをして、困ったことがあれば何でも話せる関係を築いていきます。

続きまして、管理事業について御説明します。

施設の維持管理については、計画的に修繕を実施し、施設の長寿命化を図ってまいります。

貸館業務については、日々利用者の声に耳を傾け、柔軟なサービスを提供していきます。引き続き、アンケートや利用者懇談会等により、ニーズを把握してサービスの向上に努めていきます。

最後に、相談事業でございます。

子ども・若者総合相談センター(ぶらっとるーむ吹田)では、困難を有する子供・若者を早期に発見・支援に繋げるため、学校や他の相談機関を個別に訪問することで連携を強化するとともに、地域に出て、支援につながる機会を増やします。

各関係機関と情報交換や研修を実施することで、支援のネットワークを構築します。皆様にもお配りしております「子ども・若者支援マップ」は毎年最新の内容に更新しております。

また、中学卒業後に支援が途切れてしまわないよう切れ目のない支援体制の構築にも力を入れて取り組みます。今年度は市内の中学3年生にぶらっとるーむ吹田の案内カードを配付し、相談機関の周知を図りました。3階交流ロビーの机の上にもカードを置いたところ、「未来館の2階で相談ができることを初めて知った」という声がありましたので、来年度は中学1、2年生や他の公共施設にも配付範囲を広げ、さらなる周知に努めたいと思います。

最後に、アウトリーチ(訪問相談)の充実です。支援を必要としていても、自ら相談機関に出向くことができない子供・若者に対する支援にも引き続き積極的に取り組んでまいります。

青少年活動サポートプラザの事業計画(案)については以上でございます。

・のびのび子育てプラザ 事業計画

それでは、のびのび子育てプラザの令和6年度の事業計画(案)について、資料1の5ページ目に基づいて御説明させていただきます。パワーポイントの画面の方も御覧ください。

はじめに、のびのび子育てプラザ管理事業について御説明します。

のびのび子育てプラザの施設管理としまして、毎朝施設設備の安全点検を実施したり、消毒・換気を行い、親子が安心・安全に利用できるよう努めてまいります。

続きまして、のびのび子育てプラザ一時預かり事業についてです。

のびのび子育てプラザでは、お仕事をされていない保護者を対象に一時預かりを行っています。保護者の傷病、育児負担の軽減、リフレッシュ等の理由で一時的にお子さんをお預かりしております。令和5年度10月からは佐竹台にありますおひさまルームでの一時預かり事業も開始しました。令和6年度も安全に留意し、楽しい保育を行い、保護者に安心して利用してもらえるよう保育していきます。

次に、のびのび子育てプラザ子育て支援事業についてです。

こちらは生後2か月から6か月のお子さん対象の教室「おとうさんとあそぼう」です。お父さんも小さなお子さんと一緒に参加していただいて、子供とのふれあいを楽しんでいただけたらと考えています。

右側は、多胎児家庭対象の「多胎児交流会」です。多胎児交流会については、今から多胎児を出産される保護者にも御参加いただいています。多胎児の御家庭が集まって、こういった集いに来ることで、多胎児の保護者から子育ての情報やアドバイスをもらい、交流の場になっていると思います。令和6年度も引き続き、生後2か月から3歳6か月までのお子さんを対象に、月齢別に実施する親子教室や、「多胎児交流会」を計画して

まいります。

続きまして、出張型の親子教室や転入者対象の交流会は、のびのび子育てプラザから離れている地域での開催を目指します。特に、赤ちゃんが対象の親子教室につきましては、生後2か月、3か月の赤ちゃんを抱っこやベビーカーに乗せて来られるよう身近な場所で実施していきたいと考えております。

のびのび子育てプラザ館内での季節の行事も計画しております。今年度は「七夕週間」や「お正月あそび」、「節分」等を実施しました。来年度も引き続き実施していきます。

続きまして、ファミリー・サポート・センターについてです。ファミリー・サポート・センターは、子育ての応援をしてほしい依頼会員と、子育ての応援ができる援助会員の、市民相互のボランティア活動になっています。

会員の募集は随時しております、引き続き令和6年度も広報活動を進めます。のびのび子育てプラザの他、千里丘市民センターや男女共同参画センターを借り、出張での入会講習会を実施します。また、満3歳未満の多胎児を養育する家庭に年間50時間までの利用補助をし、利用する会員も少しずつ増えてきております。

最後に、子育て支援コンシェルジュ事業についてです。

令和6年度は事業開始9年目を迎えます。専任のコンシェルジュを配置しております。相談内容としましては、子育ての相談・助言や情報提供の他、保育園や幼稚園の入園に関する御相談も受けております。令和6年度も引き続き、保護者の気持ちに寄り添う支援を続けてまいります。

以上、のびのび子育てプラザからの説明を終わります。

・山田駅前図書館 事業計画

山田駅前図書館の令和6年度の事業計画(案)について報告いたします。資料は1番の6枚目です。

吹田市立図書館では、令和5年3月に「吹田市立図書館サービス基本計画」を策定しました。本計画は令和5年度から令和14年度までの10年間の図書館事業の実施等に関する基本的な運営方針を定めたものです。山田駅前図書館の事業計画につきましても、このサービス基本計画に基づいて策定しております。

時間に限りがございますので、資料にあります令和6年度の事業全部の説明は割愛させていただき、新規事業など特徴的なものを取り上げて説明申し上げます。

まず、地域の情報拠点としての役割を目指す事業として、①から③のとおり実施いたします。

特筆する事業としまして、①資料と情報の提供について説明いたします。

図書館では、子供たちの発達段階に適した図書の提供、環境づくりのため、年齢別に、おすすめ図書のリストを作成しております。その内の青少年向けのリストの改訂につきまして、当館が主体となって進めてまいります。

また、地域・行政資料のより一層の活用のため、吹田にまつわる行事を企画しまして、関連する資料の紹介・展示を行い、地域の魅力発見や郷土愛をはぐくむ機会を提供いたします。

続きまして、生涯学習支援を目標として、④から⑦のとおり実施いたします。この内、⑤の特色あるサービスの推進、⑥の施設や地域との連携の推進につきましては、ゆいぴあ施設の特性を生かし、のびのび子育てプラザや青少年活動サポートプラザと連携して、子育て支援や、青少年活動の支援事業、就労支援などを行ってまいります。

特にゆいぴあ内で行われる講演会や行事に関連する資料の特設コーナー設置や、資料紹介リストの提供などを行い、施設内の連携を強めるとともに、ゆいぴあ施設外におきましても、博物館等、地域の他機関と連携しまして、①で取り上げましたような、吹田にまつわる行事を開催し、地域づくりに貢献してまいります。

最後に、子育て支援や学校連携についての事業は⑧と⑨のとおりです。

⑧児童サービスの推進につきましては、子供の読書活動を推進する行事を実施するほか、ぬり絵やクリスマスツリー飾り作り等、子供たちが自ら参加する催しを実施することで、利用促進を目指します。

⑨の子ども読書活動支援センター機能の推進につきましては、特に、職業体験などの申込みについて、なるべく多くの生徒を受け入れ、青少年の図書館利用の促進につなげたいと考えております。

図書館からの報告は以上です。

(会長)

ありがとうございます。皆様、なにか御意見等がありますでしょうか。

(委員)

防災対策について、職員だけで訓練されているのか、利用者を巻き込んだ訓練をされているのかお伺いしたいです。

(事務局)

今年度につきましては、指定管理者も含めた未来館全体の職員で訓練を実施いたしました。利用者と一緒にを行う訓練は実施しておりません。

(委員)

来年度も予定はないのですね。

(委員)

災害が起きた時、利用者がいた場合にどのように対応していくかというのが大事だと思います。利用者の命を守らなければならないことがあるかもしれないので、利用者を巻き込んだ訓練もされた方が良いと思います。太陽の広場でも学童保育と連携して訓練をしていますし、地域でも防災のことについてはしっかり訓練しています。先日も地域の人たちとクイズ形式のカードで、災害時にどういう風に自分が対処すれば良いかについて勉強しました。そういうのも子供を巻き込んでできるかと思います。利用者と一緒に訓練を実施することは大切だと思いますので、一度考えてみてください。

(委員)

貴重な御意見ありがとうございます。コロナ禍前には、利用者を含んだ訓練を実施しておりましたが、コロナの影響で実施が難しくなりました。御意見いただきましたので、来年度は利用者を含めた訓練について検討していきたいと思います。

(委員)

ぜひよろしく御検討ください。

未来館の計画の中で、地域との連携というのは大事かと思います。現在の取組や来年度の予定について教えてください。

(事務局)

今年度の地域との連携事業ですが、近隣に住んでいる大阪大学の留学生に協力いただき、国際交流カフ

エを実施しました。また、吹田市の農家さんとも連携し、お正月あそびで吹田くわいの試食体験を行いました。「吹田くわいを初めて食べた」という声も多く、大変好評でした。その他、高野台地区の青少年対策委員会から依頼を受け、青少年委員会が高野台小学校を訪問し、新入生歓迎イベントに協力しました。来年度は高野台小学校の子供たちが未来館に来てイベントをする予定となっています。

(委員)

ありがとうございます。地域の方から、「こういうことをしたいけれども、一緒にどうですか」という声かけがあるのですか。

(事務局)

例えば、高野台の青少年対策委員会さんは、コロナ禍でずっと新入生歓迎イベントができておらず、イベントを再開したくてもどうすれば良いかわからないということで御相談いただきましたので、ゲームやクイズなどをこちらで考えて提供しました。

(委員)

ありがとうございます。のびのび子育てプラザや図書館は地域との連携について、何かありませんか。無ければ大丈夫です。

(委員)

来年度についての事業計画ということで、網羅的に視野広く御説明いただいたかと思います。せっかくの運営協議会ですので、運営面でこういうことを重点的に考えていくべきだとか、そもそもこういった施設があることの社会的な意義や役割、どのようなところに今の青少年や子育て家庭の課題があるのか、共通課題意識があった方が上手く動くのかなと思います。今、地域の状況としてどのように把握されているのかということについてお聞きしたいです。

また、子供や若者の居場所がないということは、SOSが出せない、見えないということに直結していると思うので、居場所があるということは非常に大事なことだと思うのですが、広く色々な事業をやって終わりということにならないために、どういうことができるのか。広く色んな人たちをユニバーサルに来てください、繋がりますよという事業と、ターゲットを絞ったさらなる支援をする事業を色分けしていくべきなのかなと思いますが、何かお考えがあればお願いします。

(事務局)

まず、地域の状況についてですが、未来館としてこれまで取り組んできた中でも、交流を生むという特色がございます。3階の交流ロビーでは、居場所として利用している方がたくさんいるほか、特色あるイベントを実施することで、近隣の方だけでなく、様々な利用者が集まっています。その中で、しんどい状況があったり、課題を抱えていたりする方がいれば、スタッフが声をかけて2階の相談に繋ぐことがあります。また、交流イベントであるロビーDEカフェでは、参加者同士の繋がりが生まれています。社会の実情を把握して事業を実施できているかどうかについては、利用者のニーズに応じたイベントを実施して利用者同士の繋がりを生んだり、課題がある子は2階の相談に繋いだりというところで、現状取り組んでおります。

(委員)

居場所で集まって、それで終わりなのかという御質問ですが、2階の相談に繋ぐほかに、力を入れたいと思っているのが、他室課との連携です。母子保健課から、望まない妊娠をする青少年が増えているので、青少年活動サポートプラザと一緒に何かできないかという相談がありました。母子保健課がブースを設けて青少年の相談を聞くのはどうかという案がありましたが、なかなかそういうテーマで相談に来るのは難しいと思います。まずはポスターを掲示したり、毎月実施しているロビーDEカフェで、テーマを設けてフランクにセクシャリティについて話す機会を設け、何度か回数を重ねる中で、保健師さんに色々なテーマで話してもらい、相談のハードルを低くして信頼関係が築けたところで、個別の相談に繋げるのはどうかと考えております。未来館だけではできなくても、他機関とコラボすることで実現できることもありますので、今後もそういった可能性を広げていきたいと考えております。

(委員)

ありがとうございます。すごく良い話が聞けて良かったです。保健師さんという存在がいると知ることで、顔を見て安心して話せる機会に繋がるといいますし、思春期特有の性の問題や、妊娠だけではなく自分のセクシャリティで悩みを抱える方は、不登校の問題とも深くつながっていると思います。ぜひ広い形で、そういうものに触れても良いと子供たちが思える場所があれば、意外と話してみると楽しいとか安心できるとか、言えないからしんどかったんだとかということもあると思います。ポジティブに自分らしさや個性の一つとして性的な内容が大事なことだと気づくことが大事です。学校でも性教育はあると思いますが、その他の色々な場所でも知る機会があるというのは、すごく助けになります。

女の子の妊娠というのは、女子の問題と思われがちですが、性教育が一番効果的なのは、男性セクシャリティの方だという研究結果もあります。きちんと知りたいけど知る機会がないということが多いです。SNSにはいくらかでも暴力的な情報が流れてくるので、良い意味でのそういった情報をどこで手に入れるのかということについて考えていかないといけないなと私自身思っているところです。

(委員)

本当に色々な問題があるかと思えますし、前回話題に出ていたヤングケアラーの問題もあります。会議前に3階の交流ロビーを見ていましたが、色んな人たちが集まってきていて、良い居場所として機能しているなと思いました。雰囲気作りも良いなと思っていて、他にこんなところはなかなか無いので、良い施設だと思っています。ぜひ今後も色々な企画を続けて行ってほしいと思います。

(委員)

居場所ということについてですが、のびのび子育てプラザは、親子が自由に来館して、色々な遊具で遊びながら他の親子と交流したり、情報交換したりする場となっています。子育てに不安感を感じる家庭が多い状況にありますので、来館時に職員が自然な声かけをする中で、不安な気持ちを表に出せない保護者の方が、話をして楽になったという声をいただいています。もう少し具体的に相談したい方については、子育てコンシェルジュの相談に繋げております。

また、特に力を入れているのが、多胎児の御家庭の支援です。多胎児の御家庭はやはり負担感が大きいので、ファミリーサポートや多胎児家庭への補助のほか、多胎児家庭だけを対象にした交流会をのびのび子育てプラザや出張先など離れた場所へも出向いて実施しています。母子保健課でも多胎児支援を実施しておりますが、のびのび子育てプラザとしても支援の窓口となっています。

(委員)

ありがとうございました。

(委員)

青少年関係、子育て関係についてですが、広報体制についてはどのようになっているのでしょうか。例えば、先ほどの望まぬ妊娠のことで相談したいと思ったときに、青少年や子育て世帯がどのように情報を得ているのかということです。青少年の望まぬ妊娠の窓口があるということが、高校に伝わっているのか、あるいは子育て世帯には、市の広報紙に取り上げられて伝わっているのかなどか。時々広報紙を見ますがあまり伝わっている感がないです。市として、青少年問題や子育て問題が大事ということであれば、特集で取り上げられて、伝えられても良いかなと考えていました。今どのようになっているのか、学校をどのようにしようと思っているのか、もしあればお聞かせいただきたいと思います。

(事務局)

子ども・若者総合相談センター(ぶらっとーむ吹田)の情報については、市の広報紙、ホームページ、SNS等で発信しております。2年前には、市内の中学校、高校を訪問し、子ども・若者総合相談センターのPRを行いました。今年度は、ぶらっとーむ吹田の案内カードを市内の中学3年生に配付しております。また、吹田市こども計画を策定するにあたり、子供の声を聞くためのアンケートを実施しておりまして、各高校を訪問しました。その際に、アンケートのことだけではなく、子ども・若者総合相談センターのPRについてもお話をさせていただきました。

子ども・若者総合相談センターだけでは解決できない場合、例えば親の貧困であったり、障がいを抱えていたりという場合は、それぞれの専門機関と連携しながら解決していきます。そういった専門機関にもPRを行うことで、子ども・若者総合相談センターへ繋がることのできるよう取り組んでおります。

(委員)

私たちも周知ができていないというのは課題であると思っています。令和2年度の市政モニタリングでは、子ども・若者総合相談センター(ぶらっとーむ吹田)の認知度は4%でした。2桁いかなかったのがショックで、周知ができてないんだなと思いました。色々やってはいるのですが、広報紙はあまり見ていただけないですし、若い方はホームページも見に行かないだろうなと思います。どうすれば周知が広まるのか、教えていただけると有難いです。

(委員)

学校で言いますと、不登校のことなら保健主事が担当しています。あるいは、学校によっては不登校の委員会を作っていたりします。何日も休みが続いている子がいて、担任がコンタクトを取ろうと思っても話してくれない場合には、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが入って相談を開始します。そういった時の組織がありますので、その代表者に連絡がいってれば、未来館の近くに住んでいる生徒さんなら相談に繋げやすいですね。また、こども計画のアンケートのことは私も知っていたのですが、相談窓口のPRまでしては知りませんでした。アンケートの依頼は教頭にいただいたと思いますが、そこから保健の担当に話が伝わっていれば、何かあった時に吹田の子であればここにということで繋がることのできると思います。

また、生徒会に話を流すという手もあります。活発に動いている生徒会であれば、生徒会メンバーが企画します。また、保健委員会では保健関係のメッセージを流したり、保健室が保健だよりを何か月に1回出して

いるので、その中に入れることも可能です。保健だよりは学生たちに強制的に出すものなので、周知が広まりやすいかなと思います。

(委員)

ありがとうございます。生徒会という視点は全くなかったので、参考にさせていただきたいと思います。

(委員)

不登校や引きこもりは、だいたい中学生くらいから始まると思うのですが、高校に行けなくて、母子家庭でお母さんが病気だったりすると、孤立してしまうこともあります。そういう子には情報が届きにくいだろうと思います。そういう場合はどうしたらいいのかなとか、地域の協力も必要なんですよね。

(委員)

まさに私たちが抱えている課題が、不登校生徒の増加や通信制高校に進学する生徒の増加です。通信制高校はスクーリングが年に4~5日程度なので、人と人との関りが少なく、そのままほったらかしの状態になり、色んな所に御厄介になっているという状況が増えています。なので、子ども・若者総合相談センター(ぶらっとる一む吹田)の存在は、中学校を卒業した後も大人の目があるということで、とても心強いです。ただ、中学校の教師ですら、ぶらっとる一む吹田の存在を知らないです。例えば、他市の中学校から転勤してきた先生だと、懇談などで相談があった時に、相談機関の紹介ができないということになります。ぶらっとる一む吹田の存在や子ども・若者支援マップに載っている様々な相談機関、これだけ相談窓口があるということをこの冊子で私も初めて知ったので、4月の職員会議で周知をしたいと考えています。この冊子のコピーが可能でしたら、コピーさせていただいて、職員会議で配りたいと思います。何か困ったことがあれば、積極的に保護者に相談機関を紹介してくださいと伝えます。この冊子は担任に1人1冊いただけるのでしょうか。

(委員)

予算の関係がありまして難しいのですが、今年度は前年度よりも冊数を多くして小学校、中学校、高校に配付させていただいております。コピーについては、ホームページからダウンロード可能ですので、印刷をお願いできればと思います。予算を確保して、少しでも多く配付できればと思っていますので、よろしく願いいたします。

(委員)

今度、小・中連携の会議もありますので、私から相談機関のことを伝えるようにします。小学校の先生もどこに相談したらいいか分からないと困っています。教育センターに繋げようと思うのですが、なかなか遠くて距離感があります。もっと身近にこういう施設があることを、私からも地域の小学校、中学校の担任の先生に発信していきたいと思います。

(委員)

去年の11月に小学校、中学校の生徒指導主事研修会で相談機関の説明をさせていただきました。その時にも、初めて知ったとおっしゃっている先生がいましたので、まだまだ周知ができていないなと思いました。すみませんが、御協力をよろしくお願いいたします。

(委員)

中学校を卒業して、どこにも関わっていない青少年をどうするかというのも課題ではあると思いますので、また考えていただきたいです。

(委員)

私も高校の教員をしていますが、不登校の生徒が1名います。その生徒は家庭環境が良くないということで、大阪市南部子供相談センターにお世話になっています。高校生の支援のレベルというのは、小中学生より上がってきます。しっかりとした自分の意志を持ったうえで行動しています。小中学生であれば親と対立せず上手く手を回すことができますが、高校生は自分の意思を持って行動します。大阪市南部子供相談センターにも生徒自身が行ったということもあるので、生徒会で周知して、生徒自身で知っていくというのが良いかなと思います。分掌は生徒会ですので、私も何か協力できることがあれば、ぜひ協力したいと思います。

(委員)

すごく心強い話だったかと思います。大阪市の人も行っている高校ですよ。大阪市の人も子ども・若者総合相談センターを利用できるのでしょか。

(委員)

吹田市在住、在学、在勤の方のみとなります。

(2) 各委員会からの報告及び意見交換について

(会長)

続きまして、議事(2)「各委員会からの報告・意見交換について」ですが、各委員会より報告をお願いします。

(委員)

・青少年委員会 事業報告

令和5年4月～令和6年1月の青少年委員会の事業報告をいたします。前方のスクリーンを御覧ください。

令和5年5月にカンパン料理アイデアコンテストを実施しました。吹田市危機管理室から賞味期限が近付いた備蓄食のカンパンを提供いただき、ティラミスやアメリカドッグなど美味しく食べるアレンジレシピを調べて実際に調理しました。カンパンを始めて食べる委員も多く、備蓄食について考えるきっかけとなりました。

6月に高野台小学校の新入生歓迎イベントで子供たちと交流しました。1年生から6年生までの子供たちがイベントを通して仲良くなれるようサポートし、新聞積み競争やクイズなどを楽しみました。ゆいぴあの外へ出向いてイベントに協力することで、青少年委員会のPRにも繋がりました。

9月に実施したゆいぴあ夏まつりでは、海賊をテーマにしたブースを企画しました。色々な年代の子供に安全に楽しんでもらうにはどんなブースが良いのか、想定以上の人が来た場合の並び順はどうするのかなど、前日の夜まで何度も検討を重ねて準備しました。写真の「海賊の洞窟」では、部屋を暗くし、懐中電灯を持って迷路に挑戦してもらうことで、ワクワク感を演出しました。

こちらは制限時間内に水鉄砲で的を狙うゲームです。どんな的にするか、どんな水鉄砲を用意するかなど検討を重ね、時間をかけて準備したので、当日子供たちが楽しそうに遊んでいる姿を見て嬉しかったです。

続いて、令和6年1月のお正月あそびです。「射的おみくじ」では、射的で当たったイラストが書かれたボツ

クスから、おみくじを引いてもらいました。おみくじの内容も子供たちに楽しんでもらえるよう自分たちで考えました。トントン相撲のブースでは、自分で折り紙ができない小さな子のために、作成済みのお相撲さんも用意するなど、誰もが楽しめるよう工夫しました。

青少年委員会の事業報告は以上です。

自分も含め、仕事や学業などで忙しいメンバーが多く、イベントの準備がギリギリになってしまうことが課題ですが、来年度も子供たちに楽しんでもらえるよう精一杯頑張ります。ありがとうございました。

(事務局)

・子育てフロア委員会 報告

それでは、子育てフロア委員会の報告をいたします。

令和5年6月と10月の2回開催しましたフロア委員会の議事内容を報告いたします。

はじめに令和5年6月開催のフロア委員会についてですが、事務局から、令和4年度の年間事業報告と令和5年6月までの取組と今後の予定、運営協議会の報告についての説明がありました。その他、開館時間がコロナ禍前に戻り、利用しやすくなったという意見や、おもちゃの消毒方法についての質問や、3階フロアの利用の仕方についての意見がありました。

次に令和5年10月開催のフロア委員会については、委員の半数の出席がかなわず、書面開催となりました。令和5年度上半期の事業報告と運営協議会の報告を書面で報告しました。報告内容に関する委員からの御意見や御質問はありませんでした。

以上、簡単ではございますが子育てフロア委員会の報告とさせていただきます。

(委員)

・山田駅前図書館フロア委員会 報告

吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館山田駅前図書館フロア委員会の報告をいたします。

12期の第2回会議を令和5年8月30日に委員7人、事務局3人で開催しました。議事としては、資料に記載の案件1から4までが挙がりました。

質疑、意見交換では3(2)のとおり、申し込み多数で定員メ切となった行事で、当日キャンセルが出ていたことについて意見が挙がり、事前予約制から先着順申し込み、整理券配布制への切り替えや、定員数の見直しなどの対応策が検討されました。その他、新刊図書の選定基準や購入の流れについての質問から、図書のリサイクルや寄贈の広報方法についての意見が挙がりました。

次期第13期の第1回フロア委員会は、3月7日開催予定です。

山田駅前図書館フロア委員会からの報告は以上です。

(会長)

ありがとうございました。ただいま各委員会から報告いただきました。委員の皆様、御意見・御質問等がありましたらお願いします。

(委員)

青少年委員会についてお伺いしたいのですが、とても面白い委員会だと感じています。他のフロア委員会は利用者の意見を反映させるための委員会に見えるのですが、青少年委員会は利用者の代表の方がイベントを企画しているということですよ。もともとそういう位置づけの委員会だったのでしょ。また、どうい

人が青少年委員会をやっているのでしょうか。それと、利用方法について利用者の意見を反映するということができれば、どのようにされているのか教えてください。

高校の生徒も青少年活動サポートプラザで課題研究をしています。高校生が社会課題を取り上げ、総合的な探求の時間に、自分なりにリサーチをして、課題を絞って現場に足を運びます。そして、現場の方に提案をして意見を聞かせていただいています。また、小さなイベントを自分たちで開くのですが、そのポスターを貼っていただいた生徒もいると聞いています。そういう場として使いたい生徒がこれから増えてくるかなと思っています。青少年委員会がイベントを自分たちで企画するのも良いのですが、イベントをやれるよと発信して、サポートする役割も良いのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

青少年委員会とフロア委員会の違いについてですが、以前は青少年活動サポートプラザの中に青少年委員会と青少年フロア委員会の2つの組織がありました。青少年フロア委員会は、青少年活動サポートプラザの利用者の意見を聞いて、今後の運営をどのようにしていくのかを話し合う委員会でした。ですが、指定管理者制度の導入後に利用者懇談会が設置されたことで、フロア委員会に代わって利用者の意見を聞く場となっております。利用者懇談会は年に2回開催しています。

青少年委員会については、青少年が主体となって活動しており、イベントの企画等のほか、青少年活動サポートプラザをより魅力ある施設とするために、例えば学習室の利用方法について意見を出し合い検討する場となっております。

(委員)

青少年委員会のメンバーですが、委員長は中学校の教員をされている方です。高校生から社会人まで幅広い年代の方が活動しています。

(委員)

青少年委員会のメンバーはどのように選ぶのですか。

(事務局)

色々なところでボランティアの募集をかけておまして、ボランティア情報サイト等から来ていただいたり、未来館の利用者が館内のポスターを見て、青少年委員会に参加したいと声をかけてくれたりしています。現在の委員数は10名で、社会人5名、大学生3名、高校生2名となっております。

(委員)

色々聞かせていただいてありがとうございます。何かやりたいけど学校ではできない、地域で何かしたいなという人にとっては、とても良いグループだと思います。もうちょっと人数が増えてもいいかなとは思っています。学校のグループでイベントをしたいという時に、相談に行かせてもらって、一緒にイベントを企画したり、あるいは、ここを使っていいよというのは可能でしょうか。

(事務局)

そうですね、青少年活動サポートプラザに御相談いただければと思います。例えば、バンド活動の発表の場が欲しいということで、高校生から相談がありました。イベントの企画から一緒にしていこうということで募集を

かけたところ、5～6 グループ集まりました。高校生から社会人の方まで皆で一緒にライブを作り上げようというこで、3月にイベントを予定しております。近隣の高校の生徒からは色々な相談がありますので、施設の担当者や青少年委員会と一緒に、イベントを開催していきたいと考えております。

(委員)

資料を見ると、小さな子供たちに偏ったイベントが多いのかなと思ったのですが、高校生や社会人向けのイベントもされているということですね。青少年ということで、小さな子だけでなく、高校生や社会人も参加できるイベントもあれば面白いでしょうね。よろしくお願いいたします。

(委員)

子育てフロア委員会の報告で、未就学児の下の子がのびのび子育てプラザを利用しているが、小学生の上の子は3階のフロアに行くことになるという御意見をいただいています。小学生が1人で上の階にいることが不安なので、記録を取ってほしいという御要望だったのかなと思います。まちなかりビング北千里の児童センターでは、入退室のチェックがあると思うのですが、そういった安全、見守りの観点ですね。資料ではこの方の不安が解消されたのかが分からないので、もう少し付け加えて御説明いただければと思います。

(事務局)

子育てフロア委員会で御意見いただきまして、保護者の方にも直接お話をさせていただきました。回答としては、資料に記載のとおり御説明させていただいております。3階の方でもスタッフの見守りがあるということで御理解はいただきました。

(委員)

この方に関しては、安心感を持たれたということであれば良いと思うのですが、非常にアクティブであつという間に行方不明になるお子さんもいらっしゃいます。ですので、下の子と上の子がバラバラになって親が見られないというのは、お母さんにとっては心配だと思います。大人の目があるとは言え、すっといなくなったり、どこかに入ってしまったって怪我をしたりすることがあると思うので、何かしら安心感を高められるようなものがあれば、事故が起こってから、なんで誰も見てなかったということになるのはちょっと怖いような気もします。かといって、自由度が制限されるというのも良くないというのはよく分かるので、難しいところだなとは思いますが、皆様のお知恵を借りて良い案があるといいなと思いました。

(委員)

お子さんが館内にはいるけど、どこにいるか分からないというのはやはり不安ですもんね。入退室のカード等、どのような仕組みにするのかは難しいかもしれませんが、ぜひ安心感を持てるような良い方法を考えていただければと思います。

(3) その他

(会長)

議事の(3)「その他」に移ります。

(事務局)

次回の開催日程ですが、現委員の皆様の任期が令和6年6月30日までとなっております。そのため、委員改選後の7月頃の日程で調整をさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

このメンバーでの定例会は本日で最後となります。今回で退任される方もいらっしゃるようなので、最後に各委員より一言ずつお願いしたいと思います。

(委員)

色々とお話を聞かせていただいたり、意見を言わせていただいたり、ありがとうございました。私としては、とても楽しみにしている会議でした。私事ですが、この3月で退職する予定でして、次回からは利用者として関わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

(委員)

色々なお話を聞かせていただいてありがとうございました。非常に明確な目的を持って運営されているなということが理解できましたので、ぜひ学校と寄り添っていただけたら大変嬉しいなと思います。これからもよろしくお願いいたします。

(委員)

26年くらい民生委員をしているのですが、夢つながり未来館についてはピンと来なかったのが、お話を聞いているうちにだんだんと分かってきました。私はまちなかりビング北千里に時々行くのですが、いつも午後になると勉強をする学生でいっぱいになっています。夢つながり未来館も同じようにいっぱいになるのでしょうか。また教えてください。

(委員)

私が青少年関係の活動を始めたのは42歳の時で、そこから42年間青少年関係の活動をしてきました。未来館ができる前に準備委員会というのがありまして、その時に私も委員として参加しておりました。子供たちがたくさん集まるということで、周辺のマンションの方も3人ほど委員会に入っておりました。未来館ができてから、山田西4丁目のイメージがとても良くなりました。今までの運営協議会からだいぶ雰囲気も変わり、十数年の歴史の蓄積かなと思います。長い間ありがとうございました。

(委員)

私は今年24歳で新卒1年目です。こういう運営協議会というものに初めて参加させていただいて、緊張していましたが、やっと大人の仲間入りかと感じました。幅広い年代の方の色々な意見を聞かせていただきましたので、今後のより良い青少年委員会の活動に繋がっていきたいと思います。ありがとうございました。

(委員)

私は図書館のボランティアとしてフロア委員会に参加しており、その委員長ということで運営協議会にも出席させていただいておりました。私としてはそれほど困っている問題というのは無いのですが、色んな方のお話を聞くと、子育ても大変ですし、その子供さんが生きていく中でもとても大変な時代だなと思います。こういう運営協議会があって、だんだん良い方向に行けば良いなと思いますけれども。中には未来館のことを全然知

らないし、利用すらできない状態の方もたくさんいらっしゃると思いますので、本当に広報活動が大切だと痛感いたしました。私は今回で終わりだと思うのですが、これからも皆さんの御活躍を祈っています。ありがとうございました。

(委員)

山田駅前図書館の館長でございます。居場所という部分で言えば、図書館は様々な年代の方に利用いただける場所ではあるのですが、利用状況がコロナ前のように戻っていないので、どのようにPRするのが課題です。未来館は幅広い年代の方が利用しておりますので、のびのび子育てプラザを利用していた赤ちゃんが成長して、青少年活動サポートプラザを利用するようになっていく中で、図書館の方にも来ていただくというように、色々な階に足を運んでいただきたいと常々思っています。すでに図書館を利用している方以外の人たちに、どのように知ってもらうのかというのが特に課題だと感じております。委員もおっしゃっていましたが、とにかく広報に力を注いでいかないといけないと改めて確認させていただきました。ありがとうございます。

(委員)

のびのび子育てプラザ所長でございます。先ほど委員から御質問いただいた件で、子育て情報の広報についてお答えできておりませんでした。失礼いたしました。相談事業やのびのび子育てプラザの事業につきましては、吹田の子育てを楽しむ本でも掲載しております。のびのび子育てプラザや本庁などに置いております。その他、母子保健課での出産子育て応援事業や、民生・児童委員さんの子ども見守り家庭訪問等で子育て情報を周知していただいております。先ほどもお話がありましたが、支援が届かない家庭が無いようにするために、やはり周知が大切です。これで十分やっていると思込まないように、市民の目線に立って進めていくよう努めてまいります。今日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。

(委員)

青少年活動サポートプラザ所長でございます。この施設に来て4年になりますが、会長がおっしゃったように、本当に他にない施設だなと思いました。子供たちの笑顔や話し声がうるさいくらいに響いている3階ロビーですが、これは先人の方たちの想いや知恵が詰まった施設だなと思っています。そういった想いを途切れさせることなく、さらにより良い魅力ある施設にしていきたいと改めて思いました。色々御意見いただきありがとうございました。皆様方の御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(委員)

私も40年くらい地域で子供のことに関する活動をしておりまして、未来館が建った時からずっと様子を見ていますし、大人だけの利用も何回かしております。来るたびに3階のロビーに楽しそうなものが増えていて、色々な工夫をして幅広い事業をされています。私の地域からここまでは電車とバスに乗って来ることになるんですけども、子供会とかで行ったらどうか、楽しいところがあるよと地域に向けて自分自身も発信していきたいなと思います。またこれからも楽しい事業を色々していただけたらと思います。ありがとうございました。

(委員)

西山田の連合自治会長をさせていただいております。今回は2回目の夢つながり未来館運営協議会委員でした。山三、西山田、山一の3つの連合自治会が2年ごとに交代で出席するという仕組みになっています。次回は山一地区にバトンタッチさせていただきます。私は西山田で連合自治会長をさせていただいて11年で、

また4年後来られるかどうかは分かりませんが、2年間ありがとうございました。

(委員)

色々な地域の色々な立場の人たちの声が届くことが本当に大事だなと思います。地域に育てられる施設ということで、色んな人のちょっとした願いや想いがここで叶うみたいな、そうした小さなことでも積み上がっていくと、1日1日が歴史になっていくんだなどお話を聞きながら思いました。これからも大切な役割を担っていただきたいと思います。ありがとうございました。

(会長)

先ほどから広報が大事だと盛んに言われていますが、吹田市の広報紙って、分厚くて全然読む気にならないですね。ここでも色々なイベントを企画されているのですが、気が付いたら終わっているということもあるので、事務局の方をお願いしたいのは、委員皆さんのメールアドレスが分かっているわけですから、イベントの情報を送ってほしいです。実際に参加できるかどうかは分かりませんが、周りに広げたりとかそういうのもやりたいという想いがありますので、ぜひ委員に情報を流してほしいと思います。

本日は以上になります。次回は7月に開催ということで、メンバーが代わるかと思いますが、残る方はよろしくお願いいたします。それでは、副会長、閉会の挨拶をお願いします。

3 閉会

(副会長)

本当に色々と忌憚のない御意見や面白いお話を伺えて良かったなと思います。本日は長い間どうもお疲れ様でした。